

7587

株式会社 PALTEK

東証 2 部

2016年12月期 第3四半期 決算概要およびフォローアップ取材サマリ

株式会社 PALTEK(以下「PALTEK」)による 2016 年 12 月期(以下「16/12 月期」または「当期」)第 3 四半期(以下「3Q」)決算発表を受け、個別取材を行いましたので、その概要をご案内いたします。

2016年12月期 第3四半期累計期間 決算概要

PALTEK が 11 月 7 日付で発表した 16/12 月期第 3 四半期累計期間(1-9 月)の連結業績は、円高進行に伴う債権評価替えのマイナスが大きく響き、前年同期から悪化した。しかし、為替変動の影響を除くと、これまで低下が続いていた半導体の利益率は底を打ち、業容は実質的に上向いていることがわかる。

【表 1】にあるように、3Q 累計の連結業績は、大幅増収にも拘わらず利益は大きく悪化した。売上高は対前年同期比 20.8%増であったのに対し、営業利益は同 99.3%減、四半期純利益は 15 百万円の損失で、前年同期の 507 百万円の黒字から大きく落ち込んだ。売上高は半導体事業が商権の新規獲得およびメモリ製品の販売増加で大きく増え、デザインサービス事業も好調だった。しかし、利益面では円高が前年同期比で約 12 億円の減益要因となったことが大きくマイナスに働いた。

●【表 1】 2016年12月期 第3四半期累計期間(1-9月) 連結業績概要

(百万円、%)	15/12月期		16/12月期		対前年同期比	
	3Q累計	構成比	3Q累計	構成比	増減額	増減率
売上高	20,642	100.0%	24,944	100.0%	4,301	20.8%
売上総利益	3,081	14.9%	2,318	9.3%	△ 763	-24.8%
販管費	2,114	10.2%	2,311	9.3%	197	9.3%
営業利益	967	4.7%	6	0.0%	△ 961	-99.3%
経常利益	819	4.0%	35	0.1%	△ 783	-95.6%
親会社株主に帰属する四半期純利益	507	2.5%	△ 15	-0.1%	△ 523	-

出所：(株)PALTEKの決算説明資料をもとに(株)トリアスにて作成

事業別売上高は【表 2】に見るとおり、半導体事業が対前年同期比で 20.9%の増収、デザインサービス事業は同 23.2%増収と、いずれも 2 割を超える高い伸びとなった。

●【表 2】 2016年12月期 第3四半期累計期間(1-9月) 事業別売上高

(百万円、%)	15/12月期		16/12月期		対前年同期比	
	3Q累計	構成比	3Q累計	構成比	増減額	増減率
半導体	19,507	94.5%	23,587	94.6%	4,079	20.9%
デザインサービス	1,016	4.9%	1,252	5.0%	235	23.2%
その他	119	0.6%	104	0.4%	△ 14	-12.3%
売上高合計	20,642	100.0%	24,944	100.0%	4,301	20.8%

出所：(株)PALTEKの決算説明資料をもとに(株)トリアスにて作成

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

半導体事業では、昨年の東京エレクトロン デバイス株式会社(東証1部:2760、「TED」)のFPGAに関する代理店契約の解消に伴う新規顧客の獲得に加え、メモリの販売が急伸した。デザインサービス事業は主に航空/宇宙、医療機器向けのODM(顧客ブランド製品の設計・製造)や設計受託が大きく伸びた。

売上総利益率は前年同期の14.9%から9.3%となり、5.6%ポイントの急低下となった。半導体の仕入れに係る為替の影響額は【表3】にあるとおり、前年同期の385百万円のプラスから808百万円のマイナスへと大きく悪化し、1,198百万円の減益要因になった。これを除く実力ベースの売上総利益率は12.5%で、前年同期に比べ、0.6%ポイントの縮小にとどまる。

この縮小は半導体事業の同利益率が0.2%ポイント低下したことが要因のひとつになっている。TEDの商権獲得で販売したFPGAは、PALTEKでデザイン・イン(試作での製品採用)およびデザイン・ウイン(量産での製品採用)を行っていないため利幅が小さい。また、期初に獲得したメモリの新規顧客向けに3Q累計で約35億円の売上高があったが、これは取り次ぎの性格が強い口銭販売で売上総利益率は5%にも満たない。この2つが、売上総利益低下の主因である。為替の影響と口銭販売分を除く半導体事業の本来ベースの売上総利益率は、前年同期の11.0%から12.6%に改善し、同社の利益改善努力が効奏した。

●【表3】売上総利益に係る為替変動の影響

(百万円、%)	15/12月期		16/12月期		対前年同期比 増減額
	3Q累計	対売上高 構成比	3Q累計	対売上高 構成比	
売上総利益	3,081	14.9%	2,318	9.3%	△ 763
(うち為替の影響)	385	1.9%	△ 808	-3.2%	△ 1,193
調整後売上総利益	2,697	13.1%	3,126	12.5%	429

出所：(株)PALTEKの決算説明資料をもとに(株)トリアスにて作成

販売管理費は前年同期に比べ197百万円増加したが、これは人件費の138百万円増によるところが大きい。FPGAの新規商権獲得に伴い開発・営業要員を増やしたほか、全般の定期昇給が要因である。

営業利益は、15/12月期3Q累計の967百万円から6百万円に大きく減少した。ただし、為替の影響を除くと、それぞれ582百万円から814百万円へと大幅増益になった計算だ。既存の半導体全般で、利益率が改善したことが大きい。利益率の高いデザインサービス事業の増収も寄与していよう。この調整後でみると営業利益率は前年同期の2.8%から3.3%に向上したことになる。

営業外収支は177百万円改善した。為替差損益が前年同期の110百万円の差損から105百万円の差益へと、2億円以上改善したことが大きい。この結果、経常利益は営業利益を上回る35百万円となり、前年同期の819百万円から減少した。四半期純利益は、税率変更の影響で繰延税金資産を取り崩したため、15百万円の損失になった。

次頁の【表4】にみるように、財務面では、総資産が前期末に比べ1,234百万円、7.7%減少した。売上債権と棚卸資産側では、売上債権が1,520百万円減少した。前期末はTEDから引き継いだ商品の売上高が期末にかけて大きく伸びて債権残高が膨らんだが、その資金回収が進んだ。その一部は現金及び預金の増加につながっている。棚卸資産(表4の「商品」)の残高は、487百万円減少した。前期末に残っていたTED商

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

品の販売が進んだことが大きいと思われる。

その他流動資産に含まれる未収入金も、約 2 億円減少した。この残高のほとんどは海外仕入商品の値引き分に係る債権であることから、これも債権回収に伴って減っている。

負債側の変化で目立つのは、短期借入金が前期末の 4,130 百万円から 3Q 末の 3,320 百万円に 810 百万円減っている点だ。債権回収が進んで手元資金が増えたため、一部返済に回したものである。これを主因に、自己資本比率は前期末の 56.6%から 3Q 末の 60.2%に上昇した。

●【表 4】2016 年 12 月期 第 3 四半期末(9 月末) 連結貸借対照表の概要

(百万円)	15/12月期 期末	16/12月期 3Q末	対前期末比 増減額	主な増減理由
現金及び預金	1,199	2,305	1,106	売上債権と棚卸の減少により増加
受取手形及び売掛金	7,367	5,847	△ 1,520	売上高減少に伴い、売上債権の回収が進む
商品	3,918	3,430	△ 487	
その他流動資産	2,988	2,691	△ 296	
固定資産	504	468	△ 36	
資産合計	15,977	14,743	△ 1,234	
支払手形及び買掛金	1,047	1,113	66	
短期借入金	4,130	3,320	△ 810	売上債権の回収が進んだため返済
その他流動負債	1,468	1,158	△ 309	
固定負債	283	270	△ 13	
純資産	9,048	8,881	△ 167	
負債・純資産合計	15,977	14,743	△ 1,234	

出所：(株)PALTEKの決算説明資料をもとに(株)トリアスにて作成

2016 年 12 月期 連結業績予想の概要

通期予想は据え置かれた。会社は、1Qと上半期の決算発表時(それぞれ5月9日、8月3日)に利益予想を引き下げていた。いずれも、急激な円高進行が理由である。ただし、売上高はメモリの販売増が見込まれたことで、それぞれ 20 億円、10 億円増額修正していた。

次頁の【表 5】にあるように、16/12 月期通期の連結業績は、売上高 33,000 百万円、営業利益 330 百万円の予想である。前期比 14.4%増収を見込むものの、営業利益は円高に伴う債権の為替損が大きくマイナスに働き、前期の 1,361 百万円から急減する。それでも将来の成長に向けた人員増強は計画通り実施し、販管費はほぼ期初計画と変わらない 339 百万円の増加を見込んでいる。

事業別売上高予想は次頁の【表 6】にあるとおり、半導体事業が対前期比 14.1%の増収、デザインサービス事業は同 32.9%の大幅増収を見込む。

半導体の増収率は、前期の 24.5%から当期は 14.1%に鈍化する予想だが、このなかには前期に TED から引き継ぎ商品による大幅な増収および一部の半導体の販売終了に伴う一括購入が発生したことと、前述のメモリ口銭販売の大幅増という特殊要因が含まれている。

前期は、一部半導体の一括販売 6 億円に加え、年間 40 億円相当の FPGA ビジネスを TED から引き継ぎ、うち 30 億円を計上した。当期は、顧客引き継ぎに伴う販売 40 億円がフル寄与するとともに、前述のメモリ口

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

銭販売 35 億円を見込んでいる。名目売上高からこれらを除いた半導体事業の売上高は、14/12 月期から当期までの 3 年間で順に、概算で 220 億円、235 億円、235 億円となり、対前期比での増収率は前期が 8%、当期は 0%になる。

半導体事業については、前述したメモリ口銭販売で売上高が大幅に増加していることに加え、同社が注力する「第 2 の柱」商品 (Micron、NXP、Microchip、Linear Technology 社製品) は、メモリ、アナログ以外も着実に伸びている。一方、デザインサービス事業は上半期に ODM 案件が多かったことで、32.9%の大幅増収になる見通しだ。

●【表 5】 2016 年 12 月期 会社業績予想

(百万円、%)	15/12月期 実績		16/12月期 予想		対前期比	
	通期	構成比	通期	構成比	増減額	増減率
売上高	28,841	100.0%	33,000	100.0%	4,158	14.4%
売上総利益	4,261	14.8%	3,570	10.8%	△691	-16.2%
販管費	2,900	10.1%	3,240	9.8%	339	11.7%
営業利益	1,361	4.7%	330	1.0%	△1,031	-75.8%
経常利益	1,144	4.0%	300	0.9%	△844	-73.8%
親会社株主に帰属する四半期純利益	674	2.3%	175	0.5%	△499	-74.1%

出所：(株)PALTEKの決算説明資料をもとに(株)トリアスにて作成

●【表 6】 2016 年 12 月期 事業別売上高予想

(百万円、%)	15/12月期 実績		16/12月期 予想		対前期比	
	通期	構成比	通期	構成比	増減額	増減率
半導体	27,255	94.5%	31,100	94.2%	3,844	14.1%
デザインサービス	1,354	4.7%	1,800	5.5%	445	32.9%
その他	231	0.8%	100	0.3%	△131	-56.9%
売上高合計	28,841	100.0%	33,000	100.0%	4,158	14.4%

出所：(株)PALTEKの決算説明資料をもとに(株)トリアスにて作成

売上総利益は前期の 4,261 百万円から当期 3,570 百万円に 16.2%減少し、売上総利益率は 14.8%から 10.8%に低下する予想である。為替の影響は、前期実績が 431 百万円のプラス、当期は 785 百万円のマイナスを織り込んでいる。

これらを足し引きすると、実質的な総利益は 3,830 百万円から 4,355 百万円に 13.7%増え、売上総利益率はそれぞれ 13.3%、13.2%になる。薄利のメモリ口銭販売の急増が、その他半導体事業とデザインサービス事業の好調がもたらす利益率向上を相殺する格好だ。

販管費は、前期の 2,900 百万円から 339 百万円増の 3,240 百万円と大きく増える (誤差は四捨五入による)。前期の期中採用に伴う人件費増が当期はフルに効くうえ、当期も開発要員の増強を図る。大幅減益でも、新規顧客の獲得を契機に今後の成長に向けた投資を重視する。

この結果、営業利益は前期の 1,361 百万円から当期 330 百万円に急減する。これも為替変動の影響を除くとそれぞれ 930 百万円、1,115 百万円で、約 20.0%の増益となり、営業利益率は 3.2%から 3.4%に高まる計算になる。為替変動の影響を考慮した当期 4Q (10-12 月) の営業利益の予想は約 324 百万円となり、3Q

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

累計の6百万円や3Q単独の89百万円の損失から大きく回復する予想になっている。

この要因は主に2つある。ひとつは円安時の在庫が9月までにほぼ捌けたため、為替のマイナス影響が当4Qほとんど出ないことと、もうひとつは利益率の高いデザインサービス事業の売上高が4Q単独で548百万円と1-3Qの四半期平均の4億円強から大きく増えることだ。

ただし、為替影響については9月以降の前提レートを1ドル104.82円としていることから、これより円安に振れば利益にプラス、円高になればマイナスに働くことになる。ドル円レートが1円振れると売上総利益で月当たり約1,500万円の変動につながると会社は説明している。

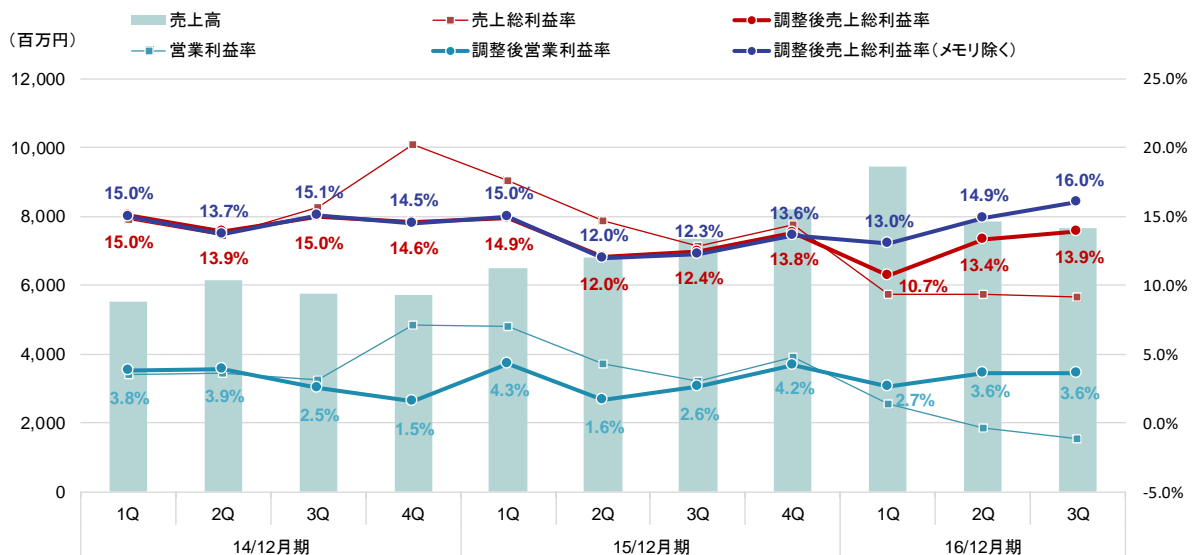
営業外収支のマイナス幅は、為替差損益の好転を主因に前期の216百万円から当期は30百万円に縮小し、経常利益は1,144百万円から300百万円に減少する見通しだ。

トピック ①: 半導体事業の改善で実質利益率は上昇に転じる

当期、PALTEKの利益は大きく悪化するが、円高のマイナス影響などを除くと違う姿が見えてくる。

【グラフ1】は、連結ベースの売上総利益率と営業利益率の四半期ベースの推移を示している。いずれも細線は公表数値、太線は原価中の為替変動の影響を除いた算出値である。名目の売上総利益率(赤細線)は14/12月期4Q(20.2%)をピークに今3Q(9.1%)までほぼ一貫して低下しているが、為替調整後(赤太線)は今年1Qを底に上昇基調をたどり、今3Qには14/12月期2Qの水準まで回復している。

●【グラフ1】 為替変動調整後の売上総利益・営業利益率



出所: (株)PALTEKの決算説明資料をもとに(株)トリアスにて作成

ここで注目したいのは、この利益率の回復が前述したメモリの口銭販売が大幅に増える中で実現している点だ。同ビジネスはメモリベンダーの依頼に応えたもので、海外メーカーに販売した。粗利率は5%未満と、他

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

のPALTEK商品の平均10%台半ばに比べてわずか1/3程度だが、販売する際に特に手もかからないため、商売としては悪くなさそうだ。

調整後の売上総利益率が当期1Qに10.7%に急落したのは、同販売が連結売上高9,431百万円の2割近くまで達したためである。この影響を除くため、メモリの売上高と売上総利益を連結収益から除いて売上総利益率(為替調整後)を見たのがグラフ1の青線である。

これを見ると、修正利益率(青線)が最も厳しかったのは15/12月期2Qだが、それ以降は上昇基調をたどり、当期3Qは16.0%と14/12月期を上回る水準に達している。特に当期については、1Q13.0%、2Q14.9%、3Q16.0%と大きく改善しているが、この主な理由として、円高の進行により円建て取引案件の粗利率が上昇している、および低マージン案件の粗利率が改善している点が挙げられる。この指標は、同社の収益性を確認する意味で今後も注目していきたい。

当期の4Qがそうであるように、為替変動幅が小さくなればそのマイナス影響は縮小する。今後余程の円高に進まない限り、来期の(名目)営業利益が当期の為替調整後の1,115百万円並みになっても全く不思議はない。

さらに、TEDから引き継いだ顧客から新たな案件が既に入り始めていることは、特に利益面で好材料だ。PALTEK自身のデザイン・インとデザイン・ウインのFPGA販売が増えることで利益率が向上すると見込まれ、これに付随して、その他半導体製品の販売も拡大することが期待される。

トピック②:最新映像技術に対応したエンコーダを発売

PALTEKグループが得意とする最新映像圧縮技術H.265/HEVCを使ったエンコーダ装置の量産出荷が近づいている。高画質コーデックで高い技術力を誇る子会社の株式会社エクスプローラ(以下「エクスプローラ社」)が開発し、自社製品として来年1月に受注を開始、4月から出荷する。市場ニーズに合った性能にしたことから、放送機器や監視カメラ、遠隔医療などの分野で需要が見込めそうだ。

エンコーダは画像を劣化させずに圧縮する装置だが、画像品質の高精細化が現行のハイビジョン(HV)から2K(HVの2倍)、4K(同4倍)へと進むにつれ、画像をいかに効率良く圧縮し、低遅延で送るかが課題になる。これに応えるのが今回発売するエンコーダ装置で、2K対応と4K対応の2機種ある。これら新製品は、11月16日から18日にかけて開催された2016年国際放送機器展(Inter BEE 2016)に出展された。

他社製品との差別化の一つの要因が、同じく出展製品のGearBox評価ボードに搭載された12G SDI(シリアス・デジタル・インターフェイス)(*1)規格に基づく伝送技術で、4K映像インタフェースの伝送速度を変換することができる。

(*1) カメラやスイッチャーなどの放送機器に使われている映像伝送方法で、一本の同軸ケーブルで高画質デジタル映像とデジタル音声の双方を伝送できる技術。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

●【図1】 H.265/HEVC4K 対応エンコーダ装置



●【図2】 H.265/HEVC2K(フル HD) 対応エンコーダ装置



出所:【図1】、【図2】ともに(株)エクスプローラの 2016年11月7日付リリースから抜粋

●【図3】 GearBox 評価ボード

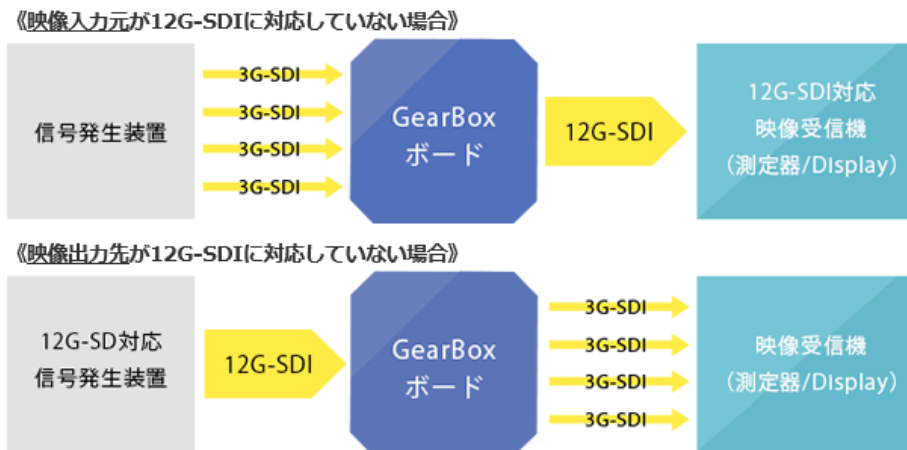


出所:(株)エクスプローラ の 製品パンフレットから抜粋

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

【図 4】で GearBox ボードの変換機能を概観しているが、3G-SDI（伝送速度 3G ビット/秒）4 本の映像から 12G-SDI（伝送速度 12G ビット/秒）1 本への変換やその逆の変換を通じ、4K 映像や 8K 映像の伝送を実現する。

●【図 4】 GearBox ボードの変換概念図



- 12G-SDI/6G-SDI/3G-SDI/HD-SDIの入出力に対応
- USBからのPCによる機能制御
- FPGAのRTLサンプルデザインも提供

出所: (株)PALTEK のウェブサイトから抜粋

GearBox ボードは、伝送速度 12G ビット/秒を実現する「12G-SDI」に対応するチップセット製品群を業界に先駆けて提供してきた米国メイコム (MACOM) 社との共同開発品だ。メイコム社による「12G-SDI」への対応が始まるまでは、4K 映像への対応は、フル HD 映像の非圧縮伝送が行える「3G-SDI」を 4 チャンネル使用し、4K 対応カメラからスイッチャーをつなぐために 4 本の同軸ケーブルが必要で、コネクタも各機器に 4 つ要していた。その背景には、「12G-SDI」対応の技術的な難しさがあった。

こうした状況を打破するためメイコム社は、2013 年に半導体ソリューションメーカーのマインドスピード・テクノロジー (Mindspeed Technologies) 社を買収した。旧マインドスピード社の放送機器向けインタフェース IC 事業を継承することで、業界初となる 12G-SDI 対応のケーブルイコライザ、ケーブルドライバなどを製品化し、2014 年 9 月から量産を開始した。

GearBox ボードは入出力端子部分にメイコム社の最新のチップセットを搭載し、専用の GUI (グラフィカルユーザーインタフェース) ソフトウェアでチップの設定変更や設定保存が簡単に行えるようになっている。また、ザイリンクス (Xilinx, Inc.) 社の FPGA を変換の中核ハードウェアとすることで、柔軟な変換を実現した。

エクスプローラ社は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) の「イノベーション実用化ベンチャー支援事業」として、2014 年より「超低遅延 8K 対応 HEVC-ECF によるハイブリッド配信装置」の開発を進めるなど、コーデック装置の開発に力を入れている。今回出展した 2K/4K のコーデック装置には

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

GearBox ボードに搭載した 12G SDI の技術が使われており、他社製品に対し、価格優位性を大いに発揮できそうだ。

日本では一般地上波放送の 4K サービスの実用時期は具体的に決まっていないが(*2)、放送機器メーカーは既に 4K 対応の放送機器をラインナップに加えており、まずは放送分野から需要が出てくると考えられる。その他に有望視されるのは、モバイル通信インフラ、遠隔医療、監視カメラなどである。

(*2) 現在市販されている「4K テレビ」は HV 画像を受信側(テレビ)で、加工してより高精細に見せる擬似 4K である。

モバイル通信分野では、スマートフォンの普及で動画のやり取りが急増していることに加え、高画質のニーズも高まっている。このため、通信トラフィックの爆発的な増加に頭を悩ます通信事業者側にとって、通信容量を圧縮するエンコーダは回線のパンクを回避する有力な手段になる。

医療分野では、政府が推進する遠隔医療で高精細画像を活用すれば、患部の色再現性や立体感が増すなど大きな威力を発揮する。これまで見えなかった病変の発見や、的確な診断や手術指示がリアルタイムで可能になるなどの効果が期待できる。

そのほか、緻密な映像を必要とする監視・観察カメラや、デザイナーや設計者のテレビ会議などにおいても 2K/4K エンコーダのニーズがあるだろう。

同製品には既に数社から引き合いが寄せられているという。圧縮画像を元の画質に再生するデコーダは来年 7 月に出荷する予定である。同様な他社製品もあるが、同社の優位性は個々のお客様のニーズに合わせた柔軟な対応が可能であることと会社は説明する。

●【図 5】 HEVC/H.265 エンコーダ装置の運用例



【遠隔地医療システムへの応用】

- ・ 地方医療機関から基幹病院へ診断画像データをリアルタイムに転送。
- ・ 専門医療診断を可能にし、さらに患者様の通院負担の軽減化。



出所: (株)エクスプローラ の 製品パンフレットから抜粋

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

ご参考

● 連結主要指標

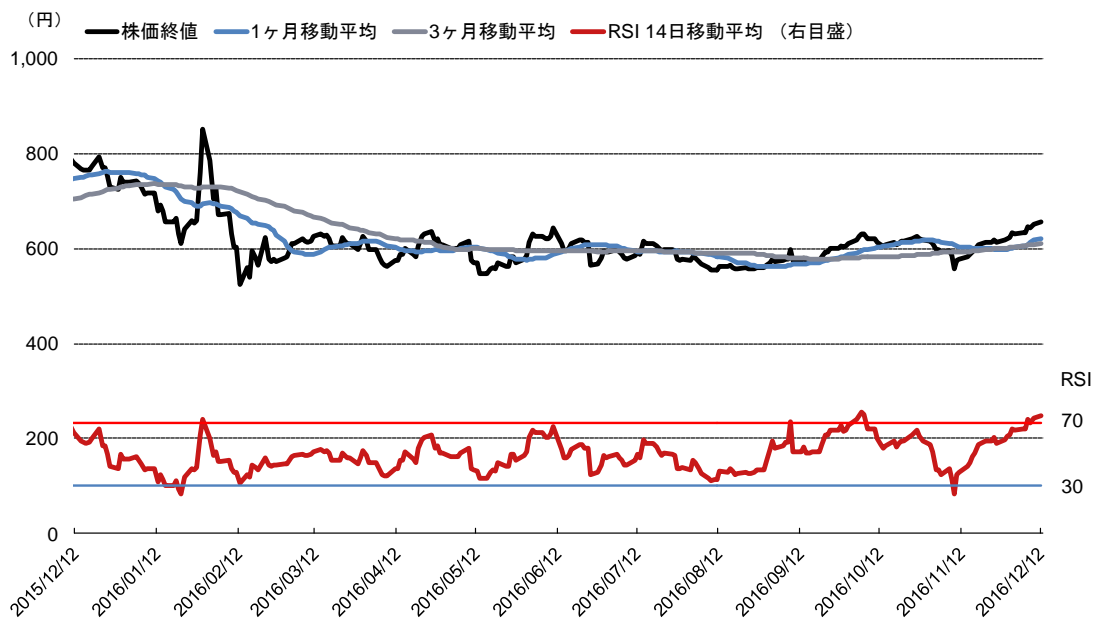
発行済株式数(株)	2016.6月	11,849,899	総資産(百万円)	2016.6月	15,269
うち自己株式数(株)	2016.6月	895,577	自己資本(百万円)	2016.6月	8,934
時価総額(百万円)	2016.12.12	7,785	有利子負債(百万円)	2016.6月	4,040
一株当純資産(円)	2015.12月	825.98	自己資本比率(%)	2016.6月	58.5
ROE(%)	2015.12月	7.6%	有利子負債比率(%)	2016.6月	45.2
ROA(%)	2015.12月	4.2%	フリー・キャッシュ・フロー(百万円)	2016.6月	1,289
PER(倍) 16/12月期予想ベース	2016.12.12	41.1	注: ROE=当期純利益÷自己資本(期中平均)		
PCFR(倍) 16/12月期2Q実績ベース	2016.12.12	97.3	ROA=当期純利益÷期末総資産		
PBR(倍) 15/12月期実績ベース	2016.12.12	0.8	PCFR=時価総額÷(当期純利益+減価償却費)		
株価(円)	2016.12.12	657	日々平均出来高=15.12.12-16.12.12の期間平均		
単元株数(株)	2016.12.12	100	有利子負債比率=有利子負債÷自己資本		
日々平均出来高(株)	2016.12.12	29,417	フリー・キャッシュ・フロー(FCF)=営業CF+投資CF		

● 連結業績の推移

連結(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	純利益	1株益(円)	1株配(円)
2012年12月期	13,231	△ 317	△ 185	△ 106	△ 9.33	5.00
2013年12月期	17,611	772	782	443	38.86	8.00
2014年12月期	23,155	1,008	1,052	563	49.31	8.00
2015年12月期	28,841	1,361	1,144	674	61.16	15.00
2016年12月期 上半期	17,286	96	116	51	4.72	0.00
2016年12月期(予)	33,000	330	300	175	15.98	13.00

注 2016年12月期予想は、2016年8月3日発表の会社予想

● 株価チャートとRSI (2015年12月12日~2016年12月12日)



出所: Bloomberg L.P. のデータをもとに(株)トリアスにて作成
 注: RSI(Relative Strength Index)とは株価の「買われ過ぎ度」や「売られ過ぎ度」を指数で表したものの一般的にRSIが70を超えると高値圏、30以下では安値圏に位置していると言われている
 $RSI = \frac{N日間の値上がり幅平均}{(N日間の値上がり幅平均 + N日間の値下がり幅平均)} \times 100$

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。